広　報
下之郷
№30

発行日　２０００．４．25
編集　発行　郷づくり広報部会

＝自然を愛し　人を愛する
豊かな心を　育てよう＝

目次:

区長・農業組合長のあいさつ	1
町会議員あいさつ	2
新一年生紹介　厄除け祭	3
郷づくり　老人会新役員　竹ノ尻川改修工事	4
営農コーナー（灯油庫完成　他）	5
ふるさと大発見（古代・中世の下之郷①）	6
読者のページ　短歌　クイズ	7

私たちの区

１９９９．１２月末現在

*戸数　２１３戸

*人口　男４２３　女４７０
計　８９３人

２１世紀の郷づくりをめざして

躍進する地域社会をめざして！

平成十二年度　下之郷区長
阪東　佐智男

この度の、一月十日の区の改選によりまして区長の重責をお預かりする事となり微力ではありますが精一杯務めさせて頂きますので宜しくご指導の程お願い申し上げます。

さて、西暦二〇〇〇年を迎え私たちの社会環境もさまざまに変化しております。少子高齢化が進み二〇一四年には四人に一人が高齢者となります。

国は政策として、介護保険等いろんな手でサポートを行ってきてはいますが、基本は地域住民の考え方と一人一人の和と行動が重要です。

高齢者が安心し語らいのできる地域環境、若い世代が他字に自慢でき愛着できる地域環境、子供たちの声が響く本来の姿である地域環境をめざして努力していきたいと考えています。

地方分権推進法により住民自治、団体自治がさらに加速し、これからの地域社会については、自己の決定によりその責任も自らが負う時代となります。これらのことを考えて見るとこの数年で、先人が築いて下さったものを二〇〇〇年以降継承するもの、継承しないものを、皆さんと共にしっかり考えて行き、若い世代に大きな負担が掛からない整備が必要となります。住民主役の住みよい地域づくりを進め、さらに躍進できる下之郷にしたいと考えています。

最後になりましたが、皆さんのご健康とご多幸をお祈り申し上げます。

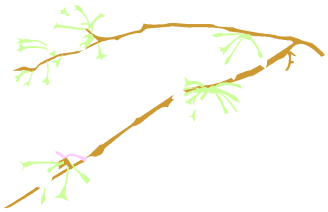
二十一世紀に向かっての農業経営

農業組合長　古川浩之

新緑の候、区民の皆様方には益々ご壮健にてお過ごしの事とお喜び申し上げます。

私、過日恒例の改選により平成１２年度の農業組合長と言う重責を負うこととなりました。もとより浅学な私ですが農家の皆様にご迷惑をかけないように一生懸命に努めますので宜しくお願い致します。

さて、二十一世紀に向かって、新農業基本法が設定され、国の方針とした中で食料自給率向上と言う大切な大きな目標を目指している所ですが、そこで下之郷農業の現実は、農家の高齢化及び後継者不足が起き農家離れが進んでいるようにおもいます。尚、諸先輩方々のご尽力により立派に圃場整備も完了戴きました。そこで下之郷農地をいかにして子々孫々まで守っていくのか、二十一世紀に向かっての農業経営をからめ大変な難題ですが、全農家方々、評議員、または各関係機関の方々のご指導を戴き少しでも問題解決に取り組んでいきたいと思いますので、皆様の格段なるご指導、ご協力戴きます様にお願い申し上げます。



町会議員就任のご挨拶

藤堂与三郎

陽春の候、皆様にはご清祥のこととお慶び申し上げます。

一月に行われた甲良町議会議員一般選挙には役員さんを初め、区民皆さんがたのご推挙、ご支援を戴き、浅学非才な私に議席を与えて戴きまして衷心より深くお礼申し上げます。

行政等には関心をもっておりましたものの、不勉強で私自身、何をどうすればよいのか戸惑っているうちに、二ヶ月余が過ぎ去ろうとしておりますが、甲良町を創造する第二次総合計画推進二年目を迎え、去る三月八日から三月二十四日までの十七日間、三月定例会が開かれ二十一本の条例と、平成十一年度補正予算四件、平成十二年度一般会計及び特別会計予算九件、等々の審議が行われ可決されました。

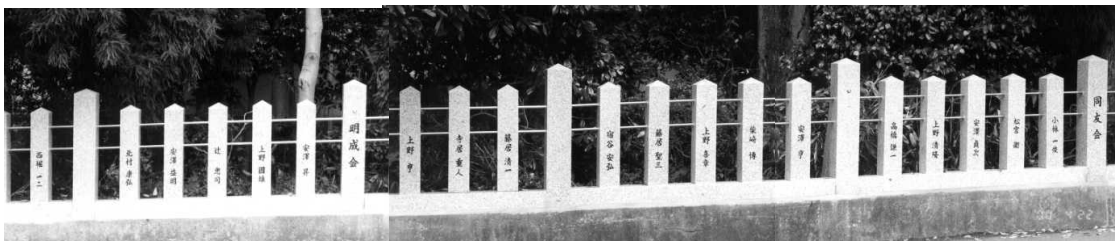
内容は広報こうら等に、掲載されると思いますので割愛させて戴きますが、何分勉強不足の私は、予算の仕組みや、行政用語等々身につけねばならないことばかりですが、自分に出来ることから始めますので、区民皆様の英知を、私にお貸し戴き、一日も早く期待に添える議員に成る為に頑張りますので、区民皆様の今後共ご指導、ご鞭撻のほどお願い申し上げます。

春祭り

例年より遅い開花が幸いし、今年の春祭りは桜花満開の中で盛大に行われました。

風は強かったものの爽やかな日よりで、区内は、終日鐘や太鼓の音に包まれにぎわいました。

「同友会・明成会」より玉垣寄進



懸案となっておりました桂城神社境内の玉垣が、「同友会」「明成会」からの御寄進により、完成いたしました。ありがとうございました。

平成十二年各小路講宿

金堂	西山　実
北金堂	上野　忍
南市場	藤居盛三
北市場	阪東　進
高座	松宮　浩
二階堂	松宮昭男

がんばれ　新一年生

三月十九日午前十一時より、桂城神社において勧学祭が奉行され、四月から入学される小学校一年生の皆さんが保護者と共に祝詞奉上のあと、一人づつ玉串を奉奠し、身心ともに健康で学業精勤を祈願されました。

一年生に入学したら学校で一生懸命勉強してくれればよいと思わないで、家庭教育の重要性を再認識されて、立派な社会人に育ってくれるように親子共々頑張って下さい。

新入生	保護者
阪東　純	貢
古川　巧也	九二男
辻　裕輔	幸男
古川　友洋	
辻　友希	利郎
高居　梢	健一
高橋　直哉	謙一
辻　忠真	忠司

生年月日順

厄除祭

二月十一日午前十時、桂城神社に於いて厄除祭が奉行されました。勤務等の都合で欠席された方もおられましたが厳粛に無事息災を祈願されました。

（各該当者共甲良町住民基本台帳登録者を掲載）

女性十九才　数へ年同学年

川並　純子
西堀　麻紀
松宮久美子
松宮　加代
片山　里美
松宮　奈々
安澤　理紗
川並　輝子

男性二十五才　数へ年同学年

西堀　学
上野　仁
上野　秀明
寺居　友彦
藤居　靖雄
阪東　宗憲

女性三十三才　数へ年同学年

川並真由美
二階堂悦子

男性四十二才　数へ年同学年

安澤　貞次
高橋　謙一
上野　喜章
宿谷　安弘
藤居　清一
寺居　重人
藤居　聖三
柴崎　博
安澤　亨
上野　清隆
上野　亨
小林　一俊

着々と進む郷づくり＝すみよい下之郷めざして＝

県道に下之郷案内板

平成十一年度郷づくり環境部会のメイン事業の一つであります案内板が二月二十七日に県道南側三ヶ所に部会員により設置されました。東から西沢清三氏工場北に下之郷、小在士の横文字、西側には、つたを黄色で着色しひらがなで、“しものご”、若松歯科医院東側には通学道路にふさわしい標語入り、その西には“下之郷スポーツ公園入口”の三ヶ所です。

これで遠来の方も迷わず下之郷へ来て下さると思います。

老人会新役員決まる

三月二十三日午前九時より下之郷農事集会所において会員多数の出席のもと総会が開催されました。

先づ、永眠された会員の黙祷の後、会長挨拶、区長祝辞、平成十一年度事業、決算報告、新入会員紹介の後、役員改選、福原範彦先生の講演、昼食、午後は愛知川町長野の松本弘師匠グループの皆さんの、座敷音頭、舞踊、歌謡曲、民謡を聞き乍らの楽しい一日を過ごされました。楽しかったですね

新役員紹介

会　長　古川　耕資
副会長　川並　繁彦
会　計　辻　栄一
会長（女性）古川　洋子

竹の尻川改修工事完成

昨年の秋から工事にかかっていた竹ノ尻川改修工事が完成し、下之郷の駐車場付近も、写真の通り見違えるように広々ときれいになりました。

おかげで、これまでちょっと不便だった駐車場への車の乗り入れも楽になりました。

このように、字内が着々と整備されていき、もっともっと住み良い下之郷になっていくことを期待しています。

営農コーナー

“農業センサス”実施

二月十一、一二日の二日間実施されました、農家の皆さんと調査員の方々御苦労様でした。集計と分析には大変な日数を要すると思いますが調査結果をもとに国民全体が農業の重要性を認識され、農業者も意欲を持って農業に従事できるように国政レベルでの結論が出ることを願うものです。

油類貯蔵庫新設

共同農機具用油類貯蔵庫が農業倉庫東角に新設されました。過去、再三に亘って消防署の指導があり消防法に抵触することから農業組合長の尽力と役員の協力により立派に竣工されました。

農業排水路清掃

午前中の字内水路清掃作業に引き続き、三月五日午後から農業排水路の清掃作業が農家の方々の奉仕により実施されました。

生活用水と共に水稲栽培には用水は欠く事が出来ません。そして京阪神の水源である、琵琶湖も汚染されては大変です。

草あり、土砂あり、幅二米以上もある水路は大変であったと思いますが農家の皆さん頑張って下さいました。御苦労様でした。

尚、桂城排水路と南北の大型排水路道路側は後日薬剤散布による除草作業が役員の協力で行われる予定です。

ふるさと言葉コーナー

下之郷のあいさつ

おいでやす
ようきてくれやはりましたなー
笑顔で言葉を掛け合う、挨拶をする人が少なくなって心淋しく思っているのは私だけでしょうか。

下之郷では昔から人情味あふれる言い方がたくさんありました。朝な夕な、出会い頭に言い交わされた挨拶を紹介しましょう。

挨　拶

朝は　（おはようさん）
昼は　（おきばりやす）
夕方は　（おしまいやす）
夏は　（あつおすなー）
冬は　（おさむおすなー）
笑顔で　（おおきにすまんなー）

と言われると、本当に良かったなーと思います。

ふるさと大発見

古代・中世の下之郷　①

下之郷のあけぼの
＝下之郷遺跡の発掘から＝

日本で最初に作られた百科辞典といわれる「和名抄」によると、犬上郡には、安食・甲良・尼子・高宮・田可・沼波・清水・神戸・あな田・青根・駅家の十一郷の名が見え、下之郷は、この中の甲良郷に属するものと考えます。

甲良町には縄文時代（一二〇〇〇～二三〇〇年前）の遺物を出土する金屋遺跡がありますが、弥生時代（～西暦三〇〇年頃まで）の遺跡は今のところ発見されていません。

これは、水田を伴う集落は荒神山周辺の低湿地帯である琵琶湖の近くで形成されたが、砂礫層を地山とする甲良町周辺の扇状地には弥生時代の集落は展開しなかったからと考えられます。

古墳時代前期（西暦三〇〇～六〇〇頃）になると、下之郷には犬上川左岸扇状地の中で最も早い段階に竪穴住居が出現します。つまりこの頃から犬上川の水利を活用する技術が導入され、土地開発が始まったのです。

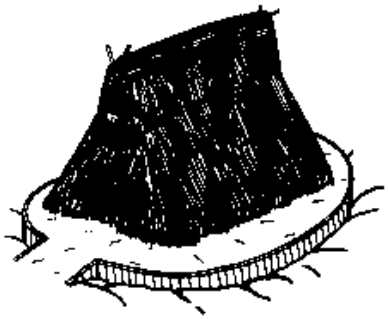
［発掘調査］滋賀県教育委員会・（財）滋賀県文化財保護協会

七世紀に入ると、竪穴住居は、次第に東へ移動し始め、その半ば頃には集落の規模は、爆発的に拡大するのです。これが下之郷のはじまりといえましょう。

昭和六十一年度における下之郷遺跡発掘の模様を当時の毎日新聞は、次のように報じています。

「南北五百メートル、東西三百メートルの土地に役二百基の竪穴住居を規則的に配置した七世紀中頃の集落千て、天智天皇の大化改新（六四五）後、中央集権的古代国家の確立を目指して建設した大津京と関連の深い当時のニュータウンと思われ、近江朝廷の律令体制を解明する貴重な資料となろう。また、集落のほぼ中央から同時代としては県内最大級の竪穴住居一基が出土したが、おそらくこれは、首長の住居か、住民の集会所であろう。

この集落は、豪族や国司が税などを集めやすくするため、新しい土地に計画的に入植させ建設したもの＝大津京の中央集権的な政治体制の中で現れた計画集落と見ている。」



クイズ頭の体操

ある細菌（さいきん）は、一分間（いっぷんかん）たつと、二個（にこ）に分裂（ぶんれつ）し、また一分たつと、そのそれぞれが分裂し、合計（ごうけい）四個になる。こうして、一個の細菌がぴんいっぱいになるのに一時間かかるとする。

同じ細菌を最初二個から始めると、びんにいっぱいになるまでに何分かかるか。

読者のページ

短歌クラブ　十二月の詠草から

亡き夫が生前にくれし色紙に短歌を記して出展したりき　上野　文子
葉を落とし裸になりし木のそばにやさしく咲きし山茶花の花　川並　克子
手芸して友とちぎりて早八年命があればあと四年はと　古川　ふさ
父母のあゆみし道を我は行く冬の夕暮れ早し友逝く　上野　たつの
車椅子にて喜寿を招かれゆきたりき祝詞の声が森にひびきぬ　藤居　和子
咲く花の四季の変化に亡き夫の偲ばれ早くも今年暮れゆく　川並　みよ子
木枯らしのこぼれ日射して老木に梅もどきの実赤く華やぐ　上野　りゑ
車窓より眺める景色鮮やかに紅葉たけなわ奥飛騨の旅　堀川　文江
わが幼き日に逝きし母今に尚木枯らし吹く夜夢に出てくる　川並　千町
百歳を夢見ていたる姑なりしも逝かれて年賀欠礼状書く　上野　二紗絵

お詫びと訂正
前号、上野二紗絵様作の短歌に誤記がありました。「座子」は「巫女」、「お手前」は「お点前」でした。お詫びして訂正いたします。

前号のクイズ正解者

上野美幸さん　阪東志奈子さん　髙橋明香さん

編集後記

平成七年創刊の下之郷広報も、記念すべき第三〇号を発刊するに至りました。

今後、更に充実した紙面作りにがんばりたいと思っています。今年も下之郷広報をよろしくご支援ください。